

スポーツと行政の 新たな関係

“まちに プロバスケットチーム” がやってきた！

新潟県長岡市

平成23年の「スポーツ基本法」の制定に始まり、27年に文部科学省の外局としてスポーツ庁が設置されて以降、各地でスポーツを通じた地域活性化、経済活性化への取組が進展している。なかでも、新潟県長岡市は、市の施設をプロバスケットボールチームの拠点に提供し、行政とスポーツ団体が連携して、市民協働のまちづくりに取り組んでいる。その新しい取組を取材した。



新潟県

長岡市

まちに がやつてきた！ プロバスケットチーム

スポーツと行政の新たな関係

長岡市 人口 268,872人、世帯数 108,304戸（令和2年1月1日現在）
新潟県中部（中越地方）に位置し、平成17年の10市町村の編入合併により県下第2位の人口を有する都市に。関越自動車道や新幹線等の高速交通網の整備により多種多様な産業が集積する。
幕末の戊辰戦争、太平洋戦争での長岡大空襲、平成16年の新潟県中越地震等の災禍から、「米百俵の精神^{*}」で復興を遂げ、全国にさきがけた人づくり、まちづくりを進めている。

●プロバスケットボールチームの ホームタウン・長岡

取材日はあいにくの空模様。だが、JR長岡駅に直結する「大手スカイデッキ」を行けば、傘をさす必要はない。ガラス張りの明るい通路を歩いていくと、市松模様のデザインが美しい大空間が目飛び込んできた。平成24年に完成したシティホールプラザ「アオーレ長岡」（以下、アオーレ）である。「ナカドマ」と呼ばれる屋根付きの広場を中心に、市役所、市民交流スペース、議会、アリーナなどが一体となった複合施設で、そのスケールの大きさと斬新なデザインに圧倒された。このアリーナが、新潟アルビレックス BB（以下、アルビBB）のホームアリーナである。

出迎えてくれた市民協働課の川合和志課長も、自分の職場ながら、建設当初はどこに何があるか迷うほどだったと言う。「かつて駅周辺には百貨店等が5店舗もあって賑わっていたのですが、平成に入って郊外店ができてくると、まちなかから人が少なくなっていました。市は解決策として有識者や中心市街地関係者による『中心市街地構造改革会議』で協議・検討を行った結果、市役所等の公共施設をまちなかに設け、加えて市民協働で活用できるスペースをつくり、賑わいを創出したいと考えたのです」と川合さん。それにしても、アリーナまでつくるとはと思いきや、「この場所には、『厚生会館』というイベントホールがありましたから、施設の新築にあたり厚生会館に代わる空間の建設が前提にあり



シティホールプラザ「アオーレ長岡」
JR長岡駅前の約1.5haの区域に建つ複合施設。地上4階、地下1階。建築面積 12,066.08㎡

ました」。実際にアオーレができてから、アリーナでは大相撲の興行やバレーボールの試合をはじめ、氷を貼ってアイススケートショーまで開催して、施設の認知度を高める努力をした。さまざまなイベント運営を可能にするため、運営をNPO法人「ながおか未来創造ネットワーク」に委託したことも功を奏し、アオーレやアリーナの利用者は増加していった。

アルビBBとの縁は、当時の代表者が長岡市出身であったこと、旧厚生会館でアルビBBの試合が何度か行われていた実績もあってつながりが深まり、平成27年8月、アオーレがアルビBBのホームアリーナに、長岡市がチームのホームタウンとなった。ならば市を挙げてチームを応援しようではないか。市は、これを好機にとバスケットボールを通じたまちづくりを志向することとなった。



●アルビBBとバスケットボールを盛り立てよう！

平成28年9月、長岡市は株式会社新潟プロバスケットボール、長岡地区 NIIGATA ALBIREX 後援会、公益財団法人長岡市スポーツ協会による「バスケットボールを核としたスポーツによる市民協働のまちづくり」を目指す4者包括連携協定を結んだ。

ホームアリーナになると、アルビBBの試合の約3分の2はアオーレで開催しなければならない。アリーナへの市民の認知度が上がり、利用者も多くなってきていたことから、特定の団体に占有されるのはどうなのかという意見もあった。これに対しては、他の利用者との調整は難しいことを説明し、使用率などを提示しながら丁寧に説明して理解を得た。

アルビBBに対しては、アリーナの使用料を3年間免除したが、現在は、試合時の使用料金を徴収している。「成績が安定し、ファンも増えてくれば興行収入も上がってきますから、将来に期待しています(笑)。でも、試合で必ず利用してくれるというメリットは大きいですよ」と川合さん。アルビBB関連だけではなく、WJBLオールスター大会や、オリンピックに向けたバスケットボールの国際強化試合などにも使われており、平成24年度から現在までのアリーナの稼働率は平日で67～76%、土日は平均85%と高い数値を示している。

市では、アルビBBの認知度アップのための予



算をつけ、大手スカイデッキにバスケットの装飾を施したり、バスケットの楽しみ方の冊子を作成したりした。

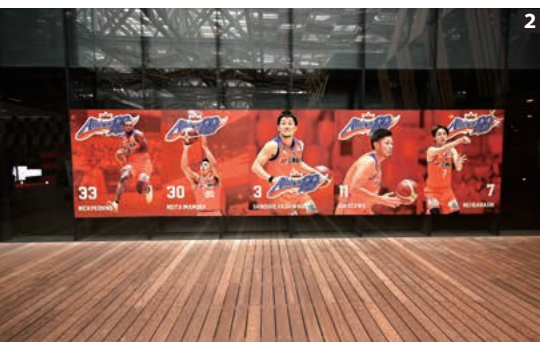
一方、アルビBBも、社会貢献を理念の一つに掲げており、小学校での「あいさつ運動」への参加やファンとの田植え体験、子どもたちを対象とした「ふれあいスクール」の開催など、地元に着目した活動に積極的だ。「子どものイベントには必ず親御さんが同伴します。そうすると自然に、アルビBBを知ってくださいますから、とても効果的です」と川合さんは頬を緩める。

教育委員会でも、アルビBBの選手を講師に招く授業を企画しており、プロ選手の華麗なプレーに憧れ、バスケットボールの選手を志す子たちもでてきている。地域に対する気持ちは市もチームも同じ。互いの信頼に基づいた良好な関係がつけられている。

バスケットによる市民協働のまちづくり4者包括連携協定締結式(平成28年9月)

*「米百俵」の精神

戊辰戦争敗北後、困窮を極めた長岡藩に、支藩である三根山藩(現在の新潟市西蒲原)から米百俵が届けられた。時の大参事・小林虎三郎は、「食えないからこそ教育を」の信念でその米を売り、学校開校の資金に充てた。この信念は、現在の長岡のまちづくりの指針や人材教育の理念となっている。



1 2,123㎡のアリーナはバスケットボール3面、バレーボール4面、テニス3面、卓球台16台に対応。観客席は可動席780を入れて3000席。試合がないときは市民に開放されている。2 市役所内のバスケット装飾。3 大手スカイデッキと隣接する市役所庁舎。4 2017WJBLオールスター戦での渡嘉敷選手。5 駅へつながる大手スカイデッキのバスケット装飾。6 ナカドマは3つの建物に囲まれた巨大空間(2,250㎡)。天候に左右されず発想豊かなイベントが展開できる。7 8 アルビBBの選手たちも田植え体験やふれあいスクールなどに積極的に参加・協力している。





- 1 バブリックビューイング
- 2 アルビカラーのオレンジストラップと長岡版ガイドブック「バスケの楽しみ方」
- 3 ながおか若者会議考案の限定ユニフォーム

●スポーツチームとの win-win な関係

包括連携協定の締結から4年目。静かではあるが派生効果も現れてきた。平成26年11月、「多世代健康まちづくり事業」の一環として、市が健康づくりの拠点である「タニタカフェ」をオープンさせたところ、平成30年にアルビBBと(株)タニタヘルスリンクの業務提携が実現した。これにより、飲食メインだったカフェはアルビBBのオフィシャルカフェとなり、公式グッズや提携で生まれた活動量計、コラボメニューの提供、選手の体づくりに向けた食事サポートも開始した。アルビBBのファンと健康づくりに関心がある市民が結びつき、健康や福祉活動の促進に加え、「バスケのまち長岡」の機運醸成につながった。行政と協力して地域密着型で活動するアルビBBの存在が、民間企業と連携し、まちづくりに発展した好例といえよう。「柔軟な発想によって、ア

健康づくりの拠点「タニタカフェ」(ながおか市民センター内)



アルビBBの公開練習の様子

ルビBBと市の事業がさまざまなところで結びつき、新たなまちづくりや事業の道が拓けていきます」と川合さん。

当初、長岡がプロバスケットボールチームのホームタウンになるなど夢物語だと思っていたと言う川合さんだが、わずかな間に地域にバスケットボールが根付いてきている実感を得ている。市内の大型スーパーがアルビBBのコーナーを設け、市にバスケットの装飾を依頼するケースも出てきた。市の事業では、課や局を横断してアルビBBに関連したさまざまな事業が展開されている。アルビBBの後援会の活動も盛んになり、バスケットボールに興味を示す市民も着実に増えてきた。

アルビBBが放つ多彩なボールパスは、アリーナだけでなく、市の各層の手から手に渡り、新たなまちづくりの物語をつくりだしつつある。

【取材・写真協力 長岡市市民協働推進部市民協働課／新潟アルビレックスBB】